

医師の異動（10月）

- 着任（令和7年10月1日付） マクラケン 佳世 リウマチ膠原病・血液内科医員
長谷川 貴士 脳神経外科嘱託医
- 退職（令和7年9月30日付） 筒井 偉宝 脳神経外科嘱託医

びょういんの参観日の開催について

11月8日（土）、「びょういんの参観日 ～知ってほしい長浜病院ってこんなところ～」を開催します。

【日 時】 令和7年11月8日（土）9時30分～12時30分

体験ブース 整理券配布

- 親子で楽しく健診体験 ○未来ナースの看護塾
- ミクロの世界／超音波体験 検査技師のお仕事体験
- 作業療法体験 革細工でオリジナルネームストラップを作ろう！
- キッズファーマシー 薬剤師の調剤体験
- やってみよう手洗い！～手がきれいに洗えているか見てみよう～
- お口の発達トレーニングと歯磨きミニ講座／パネル展示 ※整理券不要

見学コース Web予約

- 手術室探検隊！手術室で使う道具をさわってみよう
- 診療放射線技師になってみよう！
- あなたも看護師に！看護師のタマゴを発掘しよう

展示コーナー 入場自由

- 気にしていますか？目の健康 ○栄養科ってこんなところ
- あなたの大切なひとへ～ひとことメッセージ～
- 臨床工学技士 いのちのエンジニア
- のぞいてみよう！働く車、救急車

※ 詳細は当院ホームページをご覧ください。



医療従事者研修会の開催について

第354回 開放型病床生涯教育研修会

日 時：令和7年11月6日（木）17:30～18:30

テ マ：『多職種チーム医療でがん薬物療法を実践する！～胃癌を中心に～』

講 師：今村 博司 先生（市立豊中病院）

会 場：市立長浜病院 本館2階 講堂

申 込：FAX・メール・QRコードでお申し込みください。

※ 講演内容や申し込み方法等の詳細は、別紙チラシをご参照ください。

編集後記

やっと、猛暑が過ぎ去り、秋の気配を感じるようになってきた途端に、北海道の黒岳で初雪が観測されたという冬の便りも届いてきました。

今年は第79回国民スポーツ大会が滋賀県で9月30日から開催されます。食欲の秋、スポーツの秋を楽しみたいと思います。



いつも あなたの すぐそばに

市立長浜病院 地域医療連携だより

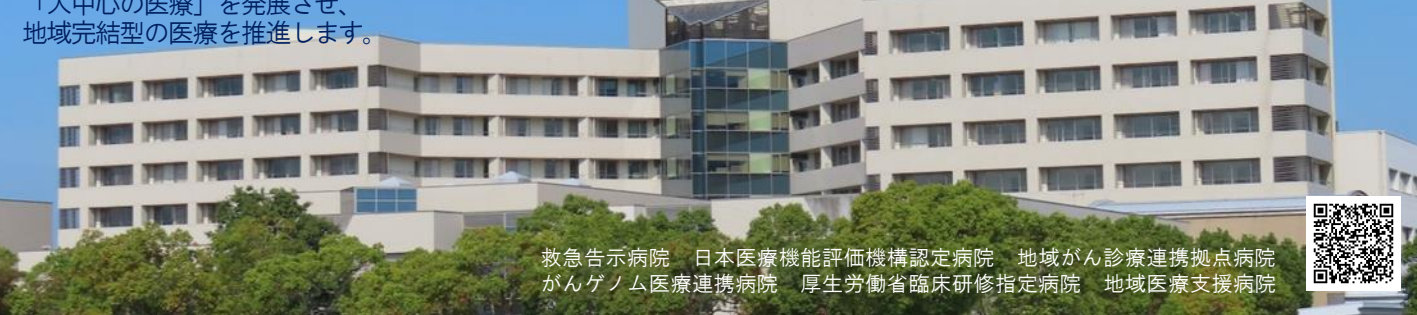
令和7年10月1日号
No.247

理 念

地域住民の健康を守るため、
「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院

患者総合支援センター 地域医療連携室



救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院 地域がん診療連携拠点病院
がんゲノム医療連携病院 厚生労働省臨床研修指定病院 地域医療支援病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。10月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けしますので、ご査収ください。 敬白

Newsweek「アジア・太平洋地域の最も優れた専門病院 一循環器内科部門一」 当院の循環器内科が2年連続で選出されました！



副院長・循環器内科責任部長 高島 弘行

市立長浜病院 循環器内科は、世界的なニュースメディアであるアメリカのNewsweek が毎年発表している『Best Specialized Hospitals Asia-Pacific 2025 Cardiology』（アジア・太平洋地域の最も優れた専門病院 2025 年 循環器内科部門）に2年連続で選出されました！

このランキングは、アジア・オーストラリアなど太平洋地域9カ国の病院を対象に、医療関係者からの推薦や患者さんからの評価などに基づいて、Newsweek が循環器内科部門におけるベスト125病院を選定しているものになります。昨年同様、今回もランキングに名を連ねているのは、その国を代表する大都市の有名大学病院や循環器センターです。施設の規模は巨大で、何十名もの循環器内科医が在籍しており、コメディカルスタッフの数も多く、素晴らしい陣容を誇る病院ばかりの中で、僅か数名の循環器内科医しか在籍していない自治体病院が選ばれることは、国内は勿論、世界的にも極めて異例です。医師だけではなく看護師や臨床工学技士、放射線技師や臨床検査技師、事務職員など、市立長浜病院 循環器内科チームの総合力が2年連続で国際的に評価されたのだとスタッフ一同、喜んでおります。

初代部長の故西川博文先生、現湖北医師会長の森上直樹先生、1学年先輩の林優先生の後を引き継ぐ形で私が当院に赴任してきたのがもう十年以上前になります。当時から我々は「ここ長浜でも、都心部の大病院と温度差の無い、最新の循環器診療を提供しよう」という目標を掲げていました。当初は複雑病変・困難病変に対するPCI（冠動脈へのカテーテル手術）中心でしたが、今では難治性閉塞性動脈硬化症へのEVT（末梢動脈へのカテーテル手術）、不整脈についてのカテーテルアブレーション、心室細動に対する植え込み型除細動器治療（ICD）や重症心不全に対する両室ペースメーカーによる心臓再同期療法（CRT）などの最新心臓デバイス治療、弁置換術に対する耐術性が無さそうな超高齢大動脈弁狭窄症患者に対する経皮的動脈弁拡張術と現代の循環器診療の進歩に合わせて間口を拡げ、総合循環器内科に生まれ変わっています。また手術だけではなく薬物療法も重要な要素です。当科ではガイドラインに示された通りの至適薬物療法（Optimal Medical Therapy）をより高い精度で実施することに傾注しています。

今回の国際ランキング入賞も、湖北を代表する循環器センターとして、地域の皆様に強くご支持いただいていることの現れであると喜びを噛みしめています。今後もこの湖北で、人間的な温かみを重視しながらも更に高度な循環器診療を目指して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。



栄養・健康づくりセンターのご紹介

栄養・健康づくりセンター長 潮 正輝

令和7年10月より、市立長浜院に「栄養・健康づくりセンター」が稼働します。本センターは、従来の特定健診では見逃されがちであった「隠れ肥満」に着目し、生活習慣病の予防と早期対応を目的に設立されました。

従来、メタボリックシンドロームの診断は腹囲を基準に男性85cm以上、女性90cm以上に加え、血圧・脂質・血糖のうち2項目以上が高値である場合に「メタボ」とされてきました。しかし現実には、女性で腹囲が90cmを超える方は少なく、多くは腹囲が基準未満でありながら体脂肪率30%以上を示す「隠れ肥満」に該当しています。こうした方々は将来的に糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病を発症するリスクが高いことが、近年の研究から明らかになっています。

さらに、隠れ肥満から発症するメタボリックシンドロームの予後リスクは、従来の肥満型メタボと同程度に悪く、放置すれば心血管疾患や腎臓病、脳卒中など重篤な合併症につながる危険性があります。そのため、腹囲の大小にかかわらず体脂肪率や代謝リスクを早期に発見し、適切にフォローしていくことが重要です。

栄養・健康づくりセンターでは、腹囲・体脂肪率の測定に加え、血圧や脂質、血糖などの基礎的検査を組み合わせ、従来の健診基準では拾い上げられなかった「隠れ肥満リスク者」を抽出します。特に今回は「**隠れ肥満＋血圧高値**」の方を対象とし、3～4か月ごとの定期的なフォローを行います。この取り組みは従来の健診をサポートする新しい仕組みとして、地域の皆さまに参加しやすいプログラム設計となっています。

センターの特徴は、医学的な検査だけでなく、個別相談を行い、食事・塩分・水分バランスや生活習慣の改善を丁寧にサポートする点です。また、アプリを活用して日々の果糖・塩分・水分摂取を「見える化」し、行動変容につなげる仕組みも導入予定です。これにより、従来の「病気になってからの治療」ではなく、「病気になる前の予防」という新しい健康づくりの形を提供します。



地域の皆さまにとって、このセンターは「地域に根ざした未来の健康拠点」としての役割を果たしていきます。定期的な健診を受けることで、見た目には太ってなくても潜在的なリスクを早期に知ることができ、自分自身とご家族の健康を守る一歩を踏み出すことができます。**病気になる前に、健康を守る行動を一緒に始めませんか。**栄養・健康づくりセンターは、皆さまの安心で持続可能な健康生活を、「すこやかなみらい」を全力でサポートします。



腫瘍内科からのお知らせ

～がん診療を受けておられる方の診療や入院を受け入れています～

腫瘍内科は、「がんと診断された初期の段階から緩和医療が中心となる終末期までがん患者さんを診療し、全人的な医療を行う」ことが務めであると考えています。がん診療において、緩和医療は最も重要な柱の一つです。当院でがん診療を受けておられる方のみならず、在宅医療を受けておられる方や他院でがん診療を受けておられる方が、一時的にでも緩和医療目的で当院での診療や入院を希望される場合、がん腫に関わらず可能な限り受け入れさせていただきます。

例えば、在宅療養されている方が、疼痛や呼吸苦、胸・腹水貯留による苦痛が増悪して症状緩和を希望される場合や、遠方の医療機関でがん診療を受けておられる方が、症状の急な増悪や通院の負担軽減等で自宅から近い当院での診療を希望される場合などが考えられます。腫瘍内科は、がん患者さんやその診療に当たられる医療者の方々のご要望にお応えし、地域のがん診療を少しでも支えたいと願っています。（責任部長 竹治 智）



未来の医師に認定証！医師体験ワークショップ2025を開催

9月6日（土）、当院で一般社団法人湖北医師会主催の医師体験ワークショップが開催されました。湖北地域を中心に滋賀県内の中学3年生から高校2年生までの21人が参加しました。

4グループに分かれて白衣や手術用ガウンを着用し、診察、カテーテル治療、腹腔鏡下手術、骨折治療、血管縫合など、本物の医療機器を使って模擬体験。湖北医師会をはじめ、市内3病院の医師・研修医・看護師を含む総勢61人のスタッフが集まり、診察や治療の方法を丁寧に伝えました。模擬体験の後は、医師や研修医との意見交換会。参加者からの質問に、医師や研修医の皆さんは自身の経験談を交えながら真剣に答えられていました。

閉会式では、湖北医師会木藤副会長から「未来の医師認定証」が授与されました。参加者からは「医師の皆さんの話が聞けて参考になった」「手技は難しかったけど、上手だと褒めてもらえて自信が持てた」「実際に体験して、外科系に進んでみたいと思うようになった」といった感想が寄せられました。

このワークショップが参加者の皆さんの医学部進学や将来の進路決定の役に立ち、将来、地域の医療を支える医師として活躍されることを期待しています。お忙しい中、開催にご協力いただきました関係者の皆さまに、お礼申し上げます。ありがとうございました。



研修医 上野 滋叶

チューターとして
参加しました！

私は高校1年生のグループのチューターをさせていただきました。

担当したグループの学生さんたちは皆、熱心に各ブースを回り、手技や診療に関するクイズの中で生じた疑問を私に熱心に投げかけてくれました。そのたびに、知識を含めて多くの気づきがありました。

中でも、「どうして医師になったのですか？」というまっすぐな問いかけは、私にとって大きな気づきになりました。改めて、医師としての責任とやりがいのかみしめ、日々の診療に邁進していこうと思いました。

初心を思い出させてくれた彼らに感謝するとともに、湖北地域の医療を担う人材が育っていくことを願っています。



研修医 小田 麟太郎

チューターとして
参加しました！

医師体験ワークショップにチューターとして参加させていただきました。

カテーテルや腹腔鏡といった手技体験では、普段見慣れない機器に触れることで医師の実際の仕事をイメージしてもらえたことと思います。

問診体験では、患者の訴えから脳のどの部位が障害されているのか、どんな検査や治療が必要かを考えてもらいました。皆さん手順を要領よく把握され、自分から積極的に問診し、学生さん同士で意見交換をしている様子が印象的でした。

また、医学部を志望しているが勉強はいつ頃から始めればよいのか、勉強だけでなく部活も忙しく、自分の時間を作るのが大変だ等、学生ならではの相談も多くいただきました。

今回のワークショップを通して、参加された学生さんが医療の世界に興味を持ってくれたら幸いです。

